

# 札幌市近郊都市における地域住民幸福度に関する調査研究

渡邊 慎哉<sup>1</sup>

## 要 旨

国民総幸福度（GNH: Gross National Happiness）の概念は現在では世界的に認知され、先進国を中心として幸福度を指標とした調査が実施されるようになってきている。我々はこのGNHを地域（地方自治体）でも活用できると考え、2006年より地域住民幸福度を提案し研究を継続してきた。

本研究は、札幌近郊の地方都市に対して住民の幸福度に関するアンケート調査を実施し、その結果を比較・分析し、地域住民幸福度という新しい観点から地域の現状を確認しようとするものである。

キーワード：GNH，地域幸福度

## 1. 本研究の目的

GNH（Gross National Happiness）は国民総幸福度のことで、1972年にブータンのワンチュク国王が提唱した概念であり、GNPがその国の発展の指標となっていた時代において、国民の幸福はその国の経済的な指標のみで判断すべきではないということを主張した。このGNHは現在では世界的に認知され、先進国を中心として幸福度を指標とした様々な調査が実施されるようになってきており、日本においても内閣府を中心に幸福度の客観的な指標を検討する取り組みが行われている（内閣府，2011）。

筆者は2006年から、国民全体を対象とするGNHを地域（地方自治体）に適用し、地域の住みやすさの新しい指標として「地域住民幸福度」を定義し、それを定量化する試みを続けてきた。それはまず、従来から実施されている地域住民満足度の指標と地域幸福度との関係を定式化し、地域が有する様々なデータから地域住民満足度を通して地域住民幸福度を算定するというものである。しかしそれはあくまで理論上のものであり、それをより精密に定量化するためには、様々な地域でのアンケート調査が必要不可欠なものであった。

本調査研究では、上記のような研究背景のもと、複数の地域（地方自治体）で住民アンケートを実施し、

地域住民幸福度という新たな視点で住民意識を分析する試みを行う。本調査研究では、札幌近郊の地方都市に対して住民の幸福度に関するアンケート調査を実施し、その結果を比較・分析し、地域住民幸福度という新しい観点から地域の現状を確認し、地域住民の幸福度を向上させるまちづくりのあるべき姿を検討する。本調査研究はそのための材料として非常に有益なものとなることが期待できる。

地方都市の人口減少は歯止めがかからない状態であり今後もそれが継続すると考えられる。それに対しては、経済の活性化・福祉・教育の充実などのような従来からの指標に基づいた対策だけでは他の自治体との大きな差別化は難しい。地域住民幸福度のような新たな指標を導入することにより、現在までの施策に加えてそれぞれの地方都市独自の取り組みを展開できる可能性がある。

## 2. アンケート調査の実施方法

本調査研究では、札幌近郊の複数の地方都市に対して、住民幸福度に関するアンケート調査を実施した。アンケート項目は、江別市が実施した2015年の総合的アンケート調査の中から、基礎データおよび幸福度に関係すると思われる項目を20項目抽出して今回のアンケート項目とした。それは、今回実施するアンケート結果と江別市の結果との整合性を確保するためである。アンケートの対象として選定した地方都市は3地

<sup>1</sup> 札幌学院大学 経営学部; wattan@sgu.ac.jp.

域で、その選定には、

- ・札幌市近郊
- ・適正な人口規模

という2点を重視した(表1)。

具体的な地域名が記されていないのは、発表に際しては地域名を公表しないという前提で選挙人名簿取得の申請を行ったためである。また、地方都市ではなく「札幌市A区」を対象としたのは、当初想定していた自治体から、選挙人名簿の閲覧を棄却されたため、新たな地域を選定せざるをえなかったという経緯がある。

アンケート対象者の選定は各自自治体の選挙人名簿からの無作為抽出によった。具体的には各自自治体から選挙人名簿の閲覧許可を取得し、各地域500世帯(無作為抽出)を選定して郵送によって行なった(O市に関しては選挙人名簿の閲覧許可が得られなかったためハローページのデータを使用した)。アンケート内容は別紙1のとおりで、内閣府で実施した住民幸福度の10段階調査を基本として、年代別・男女別などの21項目から構成されている。前節でもふれたが、江別市との比較が本調査研究の主目的であるため、アンケート項目は江別市が実施したアンケート調査から抜粋したものとなっている。

### 3. アンケート回答率

アンケートの回答率は表2のようになった。

有効回答率には地域によってばらつきが大きかったが、全体として30%近い回答率となった。市民アンケートでは謝礼品(クオカードやボールペンなど)の有無によって回答率が大きく異なるという調査結果が出ているので、今回の調査で謝礼品の同封が認められなかったのは非常に残念である。

また、今回は正規の手続きを踏んで選挙人名簿の閲覧を行ったが、選挙人名簿の閲覧制度が市民に浸透しているとは言えないため、大学へのクレームが数件発生した。その部分は今後の調査研究への課題としたい。

### 4. アンケート結果の集計

幸福度を調査する指標としては、内閣府が示した11段階の主観的幸福感と同じものを用いた。これは単純に0を「非常に不幸」、10を「非常に幸福」としてアンケートをとるものである。この指標は内閣府のみならず国際的にも用いられているため、国内・海外の様々な地域との単純な比較には有効であると考えられる。

表1 アンケート対象地域

地域名称	人口規模	特徴
K市	約6万人	札幌のベッドタウン的な要素が強い
O市	約12万人	観光都市として有名
札幌市A区	約13万人	札幌市の中でも江別市に近い区

表2 アンケート回答率

地域名称	郵送数	有効回答数	有効回答率
K市	500	93	18.6%
O市	500	134	26.8%
札幌市A区	500	208	41.6%
合計	1,500	435	29.0%

表3 4地域の幸福度

幸福度	江別市	K市	O市	A区
0	0.50	0	0.81	0
1	0.79	0	0.00	0.52
2	1.09	0	0.00	1.03
3	3.47	1.11	1.63	2.58
4	3.67	5.56	5.69	2.06
5	19.44	10.00	21.14	18.56
6	10.02	11.11	16.26	12.89
7	20.24	30.00	17.07	20.62
8	21.63	23.33	17.07	18.04
9	8.53	5.56	9.76	11.86
10	7.64	13.33	10.57	11.86
平均	6.53	7.22	6.80	7.03

表3にこの指標を用いて今回調査した3地域および江別市の幸福度を示した。

表3をグラフ化したものが図1である。図からわかる通り、K市以外は幸福度5に1つ目のピークがあることがわかる。また、K市とA区は幸福度7にピークがあるが、江別市は幸福度8にピークがある。O市に関しては幸福度6以降にピークは見られないのが特徴である。

### 5. 全国平均および海外との比較

内閣府では国民生活選好度調査を実施しており、その中に本調査研究度同様の幸福度調査が含まれている。その2013年度の結果を図2に示す。

図1と図2の比較からA区と江別市の調査結果が全国の調査結果に近い傾向を示していることがわかる。

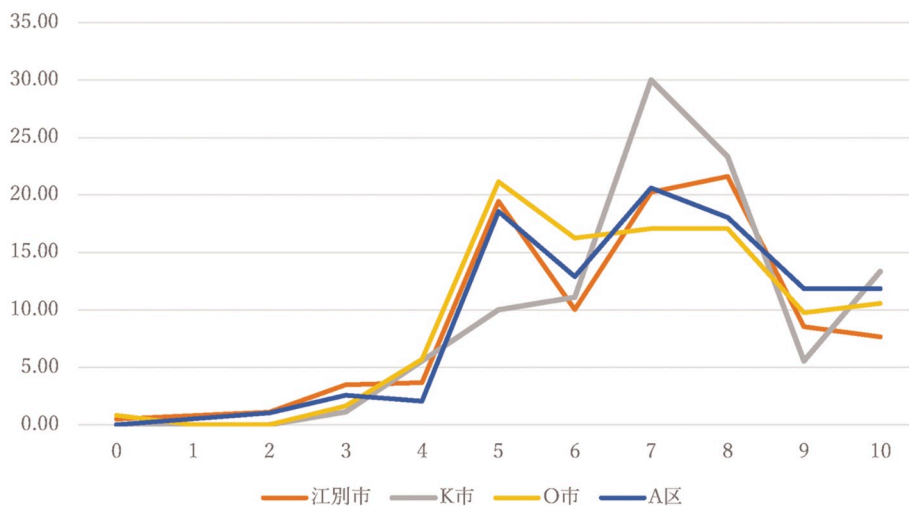


図1 4地域の幸福度

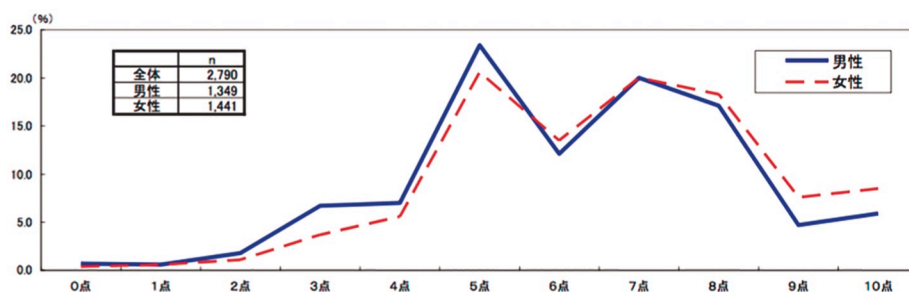


図2 日本全体の幸福度調査結果 (2013年度)

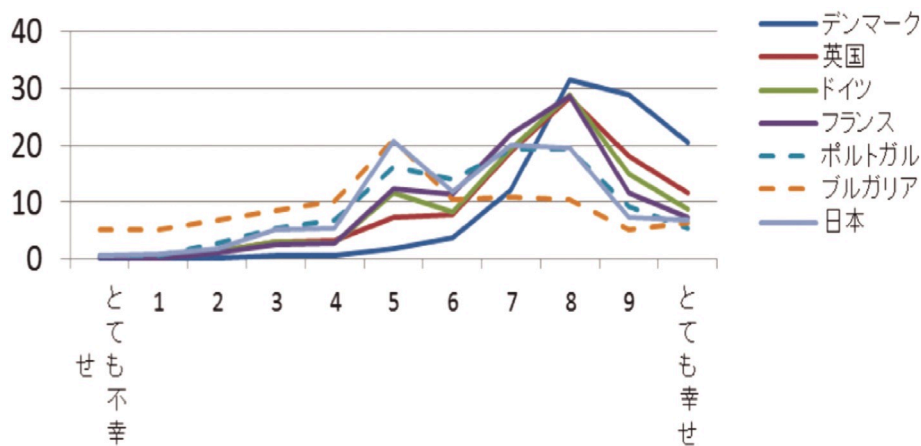


図3 海外の幸福度グラフ

特にA区の傾向がほぼ同一と考えてよいと思われる。江別市は幸福度7を幸福度8が上回っているのが特徴といえる。

次に海外との比較を行ってみた。図3は日本および欧州の幾つかの国との比較グラフである。図1と図3を比較することにより、今回調査した地域との類似性を見ることができる。

デンマークは「普通」という評価が少なく、幸福度8・9という高い幸福度のところにピークがあるのが特徴であるが、これは今回調査した中ではK市と似た傾向がある。A区に関しては前述した通り日本全体の傾向と酷似している。O市に関しては、グラフの形状はブルガリアに似たものとなっている。

江別市に関しては、幸福度5の近辺のピークは日本

的であるが、幸福度5よりも幸福度7・8が高く、幸福度8にピークがあるということであればドイツ・フランスに近く、日本型とドイツ・フランス型の中間的傾向があることがわかる。

### 6. 江別市における調査結果の分析

ここでは、サンプル数の多い江別市に関してより詳細な分析を行った結果を示す。

江別市においては年齢別では10代が最も幸福度が高いという結果が得られた。

職業別幸福度においては公務員が突出して高く、無職・パート・アルバイトが低いという結果が得られた。

### 7. 主要アンケート項目と幸福度との関係

ここでは、幸福度と主要アンケート項目との関係を調査するために重回帰分析を行った(表4)。

表4から分かる通り、全地域的に生きがいと幸福度

との相関が認められた。また、健康状態との関連性も認められる。江別市とA区に関しては暮らしやすさ・住みやすさとの相関が高いことがわかった。

### 8. おわりに

今回の報告では、幸福度に焦点を絞って、札幌近郊の3地域と江別市との比較を行った。比較的少ない有効回答数ではあったが、想像以上に地域間での差異がみられたのは興味深い。その特徴を示す要因が何であるのかは、より詳細な分析が必要となる。今回実施したアンケートには幸福度以外の項目も多数含まれているので、それらを含めた総合的な分析を行うことにより、江別市の隠された特徴を浮き彫りにしていきたい。また、日本国内や海外との比較をより詳細に行うことにより、さらに正確な類似地域・類似国が明らかとなり、それによって江別市の地域づくりの方向性を具体化していけるのではないかと考える。

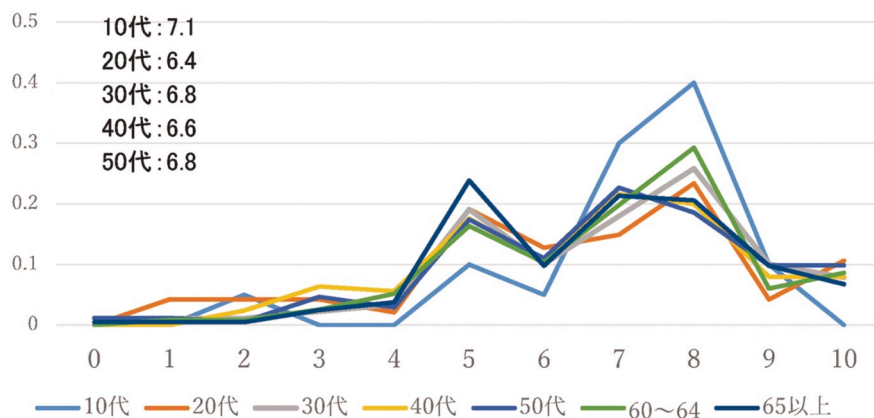


図4 江別市における世代別幸福度

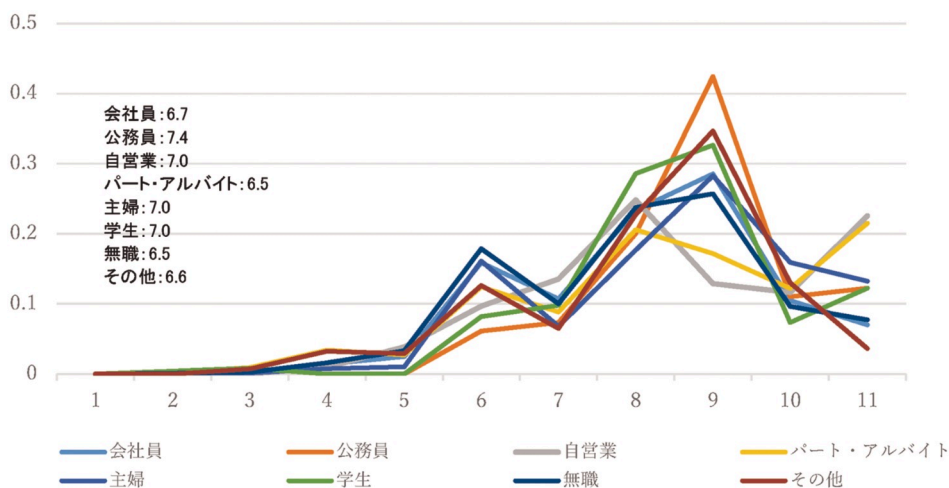


図5 職業別幸福度

表4 幸福度とアンケート項目との関係（回帰係数）

	江別市	A区	K市	O市
暮らしやすいと思うか	$6.86 \times 10^{-8***}$	$1.84 \times 10^{-3**}$	0.382	0.104
これからも住みたいと思うか	$1.38 \times 10^{-3**}$	0.0915*	0.319	0.670
利用している駅周辺の利便性・快適性について満足しているか	0.312	0.0351*	0.177	0.717
子育て中の方にとって暮らしやすいまちだと思うか	0.135	0.972	0.550	0.0491*
健康状態	$3.86 \times 10^{-6***}$	$2.67 \times 10^{-3**}$	0.106	$5.73 \times 10^{-3**}$
いま生きがいを感じているか	$3.31 \times 10^{-5***}$	$3.22 \times 10^{-5***}$	0.0881*	$2.93 \times 10^{-4***}$
介護サービスを受けているか	0.314	0.523	0.299	0.187
生涯学習として何か習いごとや趣味の活動を行っているか	0.555	0.371	0.493	0.559

\*：5%有意，\*\*：1%有意，\*\*\*：0.1%有意

**謝辞** 本研究を実施するにあたり、本学、高田洋先生にはアンケート調査の実施方法に関する貴重なご意見をいただきました。厚く御礼申し上げます。また、本学、佐野友泰先生には、幸福度の調査項目に関する貴重なご意見をいただきました。厚くお礼申し上げます。

本研究は、本学研究促進奨励金「都市再生を目的と

した地域住民幸福度の定量的測定のための基礎調査（SGU-S06-197041-16）」により実施しました。

#### 参考文献

- [1] 内閣府（2011）. 国民生活選好度調査,  
[http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/h23/23senkou\\_02.pdf](http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/h23/23senkou_02.pdf).

## Research and Study of Gross Regional Happiness in Peripheral Cities of Sapporo

Shin-ya WATANABE<sup>1</sup>

### Abstract

Recently, the concept of Gross National Happiness (GNH) is recognized worldwide. We have continued the research for applying the concept of GNH to local cities as Gross Regional Happiness since 2006.

In this paper, we propose the concept of Gross Regional Happiness. Also we describe the analysis results of questionnaire survey which we conducted on several surrounding areas of Sapporo.

**Keywords:** GNH, Gross Regional Happiness.

---

<sup>1</sup>Department of Business Administration, Sapporo Gakuin University; wattan@sgu.ac.jp.